

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和5年度 第2回佐渡市公共施設あり方検討会議
開催日時	令和5年6月20日(火) 19:00~21:00
場所	畑野農村環境改善センター 2階 大会議室
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>1) 市の公共施設の現状(公共施設等総合管理計画)について</p> <p>2) 今後の進め方についての意見交換</p> <p>3) その他</p> <p>3 閉会</p>
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>《公共施設あり方検討委員》(15名)</p> <p>《市役所》(4名)</p> <p>・事務局 財務部長 平山 栄祐</p> <p>財産管理課長 齊藤 昌彦</p> <p>財産管理課課長補佐 若林 昭宏</p> <p>財産管理課公共施設適正化推進係主任 中川 英幸</p>
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	0人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
事務局	<p>1 開会 （開会宣言） ・前回欠席した委員3名より自己紹介</p> <p>2 議事 1) 市の公共施設の現状（公共施設等総合管理計画）について （資料01により説明） ・計画の位置づけ、対象公共施設 ・市民1人当たり公共施設延床面積 ・県内自治体との比較、類似団体との比較 ・人口の見通し、将来的な公共施設の維持管理費用 ・公共施設等の管理に関する基本的な考え方</p>
ファシリテーター	佐渡市には公共施設が多いという説明があったが、皆さんの公共施設の量に関する感覚を聞きたい。
A 委員	子供が少ない学校が多いと思う。何年後かにこうなるとわかっていて、どうしてもっと進められなかったのか。
B 委員	普通に生活していて少なく感じたことはないので、多いのだろうとの印象。予約が取れないなどの不便さもないので少なくは感じない。
C 委員	老朽化した施設で廃止してきたものが少なく、使えなくなった施設をそのままにしておいたことが一番大きい要因ではないか。建物に関しては恐らく皆不足なく感じていると思う。
D 委員	地元にいる分には多いと感じたことはない。説明を聞くと多く感じるが普段の生活はあまり感じない。
E 委員	自分の住んでいる地域の公共施設しか使っていないから、特に少ない多いとは感じていない。現時点で使っていなくても何年後かには絶対必要な施設もある。
F 委員	現状でバランスよく考える必要がある。身近な集落センターなど公共施設であったことに気づかされた。
G 委員	人口が少ない地域だが体育施設やグラウンドがあり、少ない人数で使っている。いざなくなると困るが維持費がかかる点も分かる。

H 委員	稼働率や人口で考えれば多いとは思う。ただ、地形的に海岸線が長くて地理的な問題があり、へき地では公共交通もなく、免許もない人もいる。施設は多いと思うが、不便を感じる人も多いと思う。
I 委員	公共施設が多いと感じたことはない。数値で示されると確かに多いし固定費等で今後存続できない。長期的な方向として統合・集約化・複合化を、将来の子供達の負担増加など長い目で地域に理解いただき進める必要がある。
J 委員	老朽化した施設は多いと感じるし、その安全性をどう保っていけるのかが重要であると考えている。
K 委員	建物が多いというより、人が少なくなって不便になった印象。少し離れていても行きたくなるような魅力的な施設にすることと人を増やす施策の両輪でやらないといけないと感じる。
L 委員	公共施設が多いと感じることはない。最近、閉館時間や Wi-Fi 環境の不備など、公共施設の使い勝手が悪いと感じることがある。
座長	施設の質を上げて、使いたくなるような場所が増えてくることが大事。平均と比べて延床面積が多いなど量でなく、公共サービスの質、充足度の指標はあるか。
アドバイザー	<p>充足度や満足度のようなもので測るのは難しく、あまり例はない。魅力的な施設にする議論は是非行っていただくべきだが、そういった質を基準に考えることは中々難しい面がある。</p> <p>一方、人口1人当たりの延床面積が9.4㎡というのは、政令市などに比べ5倍でかなり多いが、絶望的な数字ではない。公共施設マネジメントで重要なのは、量ではなく、施設の維持更新費が足りるか、である。施設が老朽化し、その建替えや維持をしていくための費用が足りないから、施設の量を減らすとなっている。離島の特性として1人当たりの面積量はかなり多くなるが、市の財政の中で見ると十分に対応できるレベルにあるので、是非皆さんで知恵を出し合って乗り切っていく方法を見つけてほしい。</p> <p>この先大変なることがわかっていながら、なぜ事前に手を打てなかったのかという話が何人かの委員からあったが、人口が減ればその分施設も減らせればよいが、簡単に施設を減らせないので問題が大きくなってしまふ。利用者が減った分は施設を廃止したり、施設規模を縮小したりするなど柔軟に対応していければ、もっとこの問題は対応しやすい。</p>
事務局	事業費 140 億として市の持ち出し金額が重要。必要なものは財源を探して整備、廃止なり進めていかなければいけない。

事務局	<p>2) 今後の進め方についての意見交換 (資料 02-1、資料 02-2 により説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 3 回以降に施設分類別、第 6 回以降にエリアベースで検討 ・ 施設分類別表は延床面積 30%削減したイメージで着色 ・ 詳細情報は施設カルテと所管課からの説明より
ファシリテーター	<p>個々に考えていくと難しいので、評価に基づいて 30%削減するとしたらというもの。グレーゾーンから少しでも施設を活用していくという方向に考えていくための議論をできないかと思っている。皆さんで議論しながら A 施設を廃止するところのエリアには何もなくなるので、維持以外の手段で残す方法はないだろうかなどの議論を展開できるとよい。</p>
L 委員	<p>現段階で施設量がかなり多いのであれば、30%以上減らす必要があるのではないか。</p>
事務局	<p>計画通り 30 年で 30%削減を達成しても、1 人当たりの延床面積 8.5 m²は全国的にかなり多いことには変わりはない。ご指摘のとおりそもそも 8.5 m²が多く、市の財政上の考えではできれば 30%以上削減したい。一方、市民サービス維持を考えると 8.5 m²を維持ということになる。</p>
座長	<p>このまま放置したら 8.5 m²が 15 m²とかになるだろう。30 年後の全国的な平米予測値などはあたりするのかわ。</p>
アドバイザー	<p>全国的な平均予測値というのは聞いたことがない。離島としての特殊性があるので、他市の水準を目指すよりは、人口減った分は施設を減らし、現状維持をきちんと達成できれば合格点と言えるのではないか。</p>
I 委員	<p>公共施設の延べ床面積の 30%削減を目標としているが、基本は現状のサービス水準の維持を考えるべきでないか。数値目標はあくまでも結果との比較でしかない。利便性を落とさず他で利用できることを示して納得してもらうことが一番。</p>
座長	<p>削減した分、他にコストを向け維持できることが理想的。質と量の両方を求めることは無理なので、質を担保したまま量を減らすという着地点に関する議論が必要。</p>
ファシリテーター	<p>分類別に見ていくと複合化の話は一切出てこない。地域別で色々な分類施設を合わせてみることを最後にやってみようという話はしている。</p>
K 委員	<p>総合評価に基づいて 30%削減に向けた選択を考えることはできるのか。そこ</p>

	から救い出す方が議論しやすい。
事務局	例えば、政策優先度が高くても過剰域に存在する施設であれば、将来的に減らすことができると考えている。逆に政策優先が高くないでも、エリアとして施設が不足して、市民サービスに不便が生じるのであれば、残す方法を検討していく必要がある。
B 委員	定量的評価が A であれば手放してもよいのか。
事務局	費用対効果が高い施設であれば、民間企業などに指定管理に出した方が、より効率的に運営していただける可能性もある。
B 委員	定量的評価 C は必ずしも廃止の理由にならないのではないかと。定量的評価が低いから行政が運営する面もある。 例えば Wi-Fi がないという理由で会議室を使っていないのであれば、会議室自体に需要がないわけでもないで、Wi-Fi を整備すれば利用が伸びるかもしれない。
事務局	施設を見ると 10%~20% の低利用率の会館がほとんどであり、3 つを 1 つにすれば 30% の利用率になる。30% の施設であれば、皆さんの活動を制限することなく施設を減らしていけるのではと考えている。 残る施設に投資するために減らしていくイメージ。
ファシリテーター	利便性を上げるばかりの議論ばかりしていても前進はしない。逆に廃止が決まっているものがあれば、サービスを充当するための工夫を考えていくこともできるが。
B 委員	例えば佐渡総合体育館があるので真野スポーツハウスが必要ないと候補に挙がった場合に、スポーツハウスにはプールがあることによる意見や議論を交わせればよいのではと思う。
ファシリテーター	色分けしているのは、そういった視点をアクティベートするため。意見を出すために色分けをしている。
K 委員	廃止の議論は難しいから集約化、複合化を考えるということだが。例えば学校はなかなか壊せず必ず各地域にあるものだから、学校へ複合化できる施設という観点で考えるのであればできそうだが。
座長	廃止したことでコスト削減できるうちの一部をサービス充実にあてる落としどころができるとよい。

H 委員	<p>廃止すべき施設同士の複合化・集約化の検討を行うのではなく、残すべき施設へ廃止すべき施設を集約する、または残すべき施設を廃止すべき施設に集約などしていかないと 30%削減は難しいのではないか。</p>
座長	<p>施設別だけでみるとそうだが、ジャンルで複合化する施設もあればエリアで複合化する施設もあるので。</p>
H 委員	<p>例えば会館は 50%、農業施設は 20%といった施設類型で一律 30%でない議論も必要だと思う。廃止すべき施設の複合化の議論に時間をかけると前に進みにくいのではないか。</p>
ファシリテーター	<p>何回か議論を行う中でやり方を変えていく必要があるかもしれません。とりあえずこの方法で 1 回やってみませんか。</p>
ファシリテーター	<p>この会議は市が基準に沿って進めていく中で、こういう観点から、こういう工夫をすれば、こんな展開があるといったことを一つでも多く意見として蓄積することにより、最終的に市が廃止や集約化をする参考とするものになることを目標にするのがよい。</p>
アドバイザー	<p>白の施設についても複合化の議論は必要との委員の意見は鋭い指摘だと思う。白の施設は単独でずっと維持する施設だということにはならない。他の自治体でも、施設を建替える時には、複合施設として建替えることを基本とする自治体が結構ある。おそらく白の施設でも建替えの時期が来たら、他の施設の複合化を考えていく対象になっていくと思う。</p> <p>その点を認識した上で、もし後で地域別の複合化の検討を行うという回があるのであれば、市の施設もその時にはまた複合化の検討対象にしていくことが必要ではないかと思う。</p>
	<p>3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の会議日程について調整し、7 月 14 日 19 時からの予定とした。
	<p>4 閉会</p> <p>(平山財務部長より閉会の挨拶)</p>